

I 実践

1 研究主題

思いやりと助け合いの心を持ち、互いに認め合うことのできる児童の育成

(1) 主題設定の理由

本校では、校訓を「ただしく ゆたかに たくましく」とし、「心豊かでたくましく、夢や希望をもって自ら学ぶ児童の育成」を教育目標としている。校訓の「ゆたかに」では、「思いやりの心の育成」を目指している。

本校の児童は、明るく元気であり、やさしさをもって相手に接している様子も見られる。しかし、時に自己中心的となり、友達を傷つけるような発言や行動をとってしまうこともある。そこで、思いやりと助け合いの心を持ち、互いに認め合うことのできる児童を育成したいと考え、主題を設定した。

(2) 研究の内容

- ・豊かな体験活動の実践（異学年交流・福祉体験・ボランティア活動）
- ・道徳教育の充実
- ・人権メッセージへの応募
- ・人権教育を意識した学級経営（心の声アンケートや日々の生活を観察等による実態把握）

2 実践内容

(1) 豊かな体験活動の実践

ア とも遊び・あおぞら班活動（縦割り集団活動の実施）

毎週水曜日、昼休みと清掃時間をあてて、クラスごとに遊びを決めて楽しく遊ぶ「とも遊び」を行っている。

また、あおぞら班活動では1～6年生の縦割り集団を14班編成し、6年生を中心とし、鬼ごっこやドッジボールなどをして遊んでいる。運動会では、「あおぞら種目」を設定した。あおぞら班ごとに紅白に分かれて大玉送りを行った。

イ さわやかマナーキャンペーンの実施（あいさつ運動）

年に10回、さわやかマナー週間を設け、昇降口や正門前であいさつ運動を行っている。上学年と下学年の当番のクラスの児童と運営委員会の児童が、PTA専門委員と一緒に「おはようございます」と、登校してくる児童に元気に挨拶している。

ウ さわやかマナーキャンペーンの実施（環境ボランティア）

11月にあおぞら班の縦割り集団で、校庭や通学路、学校から近い城址公園やひやっぴょうち公園の落ち葉拾いや、ゴミ拾いを実施した。

エ 地域の方々との交流

（ア）助川学区大運動会

本校の運動会は、地域の方々とともに行うものである。数多くの地域種目があり、各学年ごとに地域の方と楽しく競技に参加した。

（イ）学校子ども会

本校の児童をおおよそその地区ごとに縦割り班編成し、地域のコミュニティセンター主催のもと、各班ごとに様々な遊びを行った。



〈あおぞら班活動〉



〈あおぞら種目〉



〈さわやかマナーキャンペーン〉

(ウ) 敬老会（４年生）

毎年、９月に行われる助川学区の敬老会では、４年生が歌やリコーダー演奏、ソーラン節の踊りを披露している。

(エ) 福祉体験の実践（５年生）

介護老人施設「さくら日立」に５年生が出向き、お年寄りとの交流や、歌や踊りを披露した。



〈さくら日立訪問〉

(２) 道徳教育の充実

各学年とも、めざす児童像にむけて、道徳の時間と他教科や他領域との関連を図りながら、道徳教育を進めている。また、年に１度、授業参観で道徳の授業を保護者に公開した。



〈道徳授業公開〉

(３) 人権メッセージへの応募

高学年の児童が人権メッセージに取り組んだ。各学級から良いメッセージを選び、県の人権メッセージに応募したり、人権コーナーに掲示したりした。

(４) 人権教育を意識した学級経営

各学級において、思いやりと助け合いの心を持ち、互いに認め合うことのできる児童を育成するため、学級活動や授業の中で、自分を表現する場や、友達に意見をもらう場を設定している。ペアや、クラス全体の関わりの中で、互いのよさを認め合う活動を通して、自己肯定感を高められるようにした。帰りの会に、友だちの良いところを発表し、友だちの良さに気付かせる場面を設定している学級もある。

３ 成果

- ・ 異学年と一緒に遊んだり、関わり合うことにより、上級生が下級生の面倒を積極的にみる姿が見られるようになった。学年の違う児童との関わり合いにより、自然と相手に対して思いやりの心をもって接することができるようになりつつある。
- ・ 学校子ども会やお年寄りとの交流では、少子化社会や地域のつながりが希薄になりつつある中で、世代の違う人々と自分の思いを通わせ、誰とでも思いやりの心をもって行動する良い機会となった。
- ・ あいさつ運動では、友だちや地域の方に対して元気なあいさつをすることができた。はじめは小さい声だった児童も、自信をもって元気よくあいさつをする姿が見られた。まだ、あいさつの声が小さい児童もいるので、これからも継続させていきたい。
- ・ さわやかマナーキャンペーンでは、普段自分たちが使っている学校や道路、公共施設を清掃することで、奉仕の心が芽生えていた。
- ・ 人権メッセージづくりは、人権について考えるきっかけとなった。メッセージを校内に掲示することで、友だちの思いに気付いたり、人権についての意識を高めたりすることができた。

Ⅱ 今後の課題

- ・ 児童が様々な体験を通して、思いやりの心や助け合いの心をさらに育て、学校生活の場で人権教育の充実を図っていきたい。
- ・ 家庭や地域でも人権に対する意識を高められるよう、連携を図り、啓発活動に努めていきたい。

Ⅲ 人権コーナーの設置の様子

【人権コーナーのようす】



【昇降口の啓発ポスター】

